

水産

農林水産部 水産局 漁業資源課



上田 卓哉

Ueda Takuya

異動経歴

H27年採用 水産総合研究センター内水面水産研究所

R2年 農林水産部 水産局 漁業資源課



平成27年度
採用

Q1 あなたが採用された職種の魅力について教えてください。

水産職は、水産業の振興という専門性のあるテーマの中で、水産資源の管理や漁業の許可・取締、水産物の販売促進など様々な分野の業務に従事することができます。

また、水産職の特徴として、行政的な業務だけではなく、普及指導員として現場に出て漁業者のサポートをしたり、研究員として調査や技術開発などにも取り組むことができる面白さがあります。

Q2 仕事の内容とやりがいを感じる瞬間について教えてください。

私は、東京湾におけるノリ養殖業やアサリ漁業の他、外房沿岸の磯で行われる海士漁などの振興を図る業務を担当しています。

本県は漁業が盛んな一方で、近年では高齢化や環境変化の影響を受けており、特に東京湾の漁業は厳しい状況であるため、対策に力を入れています。

課題の解決は難しいものがありますが、対策がうまくいったときに水揚量が増えたり、流通している様子を見ると達成感があります。

Q3 千葉県を選んだ理由を教えてください。

千葉県には、東京湾や太平洋、九十九里浜、半島の南に広がる磯など異なる特徴を持った海があるほか、利根川をはじめとした川や湖沼もあり、このような多様な漁場に由来する漁業や文化を有する魅力があります。また、千葉県は東京に隣接し都市として発展をしながらも、一次産業である漁業が盛んであることから、他県には無い業務の幅があると考え、千葉県を選びました。

Q4 職場の雰囲気について教えてください。

水産職は、魚のことなど共通の話題があることや異動をしても見知った人が多いことなどから、職員同士の仲が良いです。

このため、職員間の相談がしやすく、自分の所属内はもちろん、所属を超えても協力して業務に取り組みやすい雰囲気があります。

Q5 仕事をする上で心掛けていることを教えてください。

現場を知ることが大事にしています。

本庁にいと現場から遠くなりがちですが、現場で働いている漁業者の皆さんや研究員・普及指導員の方々の話をよく聞くとともに、自らもできるだけ現場に足を運ぶように心がけています。

業務の効率化のために電話やメールも活用しますが、実際に五感で現場を知ること、問題を理解したり、対策をより主体的に考えることに役立つと考えています。

Q6 仕事の中で難しく感じていることや苦勞したこと、大変だったことを教えてください。

漁業は環境の影響を大きく受けるため、人の手がなかなか及ばない課題が発生することがあります。そのような課題に対して効果的かつ実施可能な対策の立案に苦勞する他、解決に向けて新たな取組を進める際に、様々な関係者との調整を行う必要などもあります。

また、対策や調整の方法には決まった正解が無いことが多く、悩むこともありますが、上司や同僚などの協力を得ながら、対策の実現に向けて日々の業務を進めています。

Q7 あなたの考える千葉県の魅力を教えてください。

千葉県は都市と自然が両立しているところが魅力です。この環境を活かして、水産業や農業、畜産業も盛んであり、おいしいものがたくさんあります。

Q8 休日や退庁後の余暇の過ごし方について教えてください。

職場には魚などに興味を持つ人が多くいるため、休日に同僚達と釣りに出かけたり、余暇も楽しく過ごしています。

また、休日にはボランティア活動などにも参加しており、仕事だけではできない経験をしたり、様々な方たちとのネットワーク作りなどにも役立っています。

Q9 今後の目標や挑戦してみたいことなどを教えてください。

一朝一夕に大きな変化は生み出せませんが、私の仕事が将来にわたって豊かな水産物を享受するための一助になるようにしたいと考えています。

Q10 受験者へのメッセージをお願いします。

千葉県の水産職には様々な活躍の場があります。水産業を盛り上げるために一緒に頑張りましょう。

MY SCHEDULE

08:30
出勤・メールチェック

09:00
二枚貝の資源増産に関する
全国研究会（WEB会議）

12:00
昼食

13:00
移動

14:00
ノリ養殖への支援に係る
現地検査

16:30
帰庁
メールチェック・報告書作成

17:15
退庁

